



# ぱとなだより

## Patona 第6号 2011.2



駒ヶ根市中央16番7号  
Komagane-shi, chuo, 16-7  
TEL : 82-1150 FAX : 82-1151  
Mail : kmcenter@cek.ne.jp

### 仕事始め式で気を引き締め



「ぱとな」新春スタート

市民活動支援センターを運営する市民活動支援協会鈴木明会長は一月二十日夜、市内中央の同センターで2011年新年会を開き、事業進展に向けて、決意を新たにしました。

協会員、職員ら十三人を前に、鈴木会長は「一年余り、支援センターの仕事に関わり、諸事業や諸問題に遭遇するにつけ、それらの対応や処理の難しさを痛感してきました。ほとんどの事柄が始めての事業であって、前例がありません。その都度対応を模索し、新たなルールとしてゆかなければなりません。やらねばならない事業は多くまた多岐に渡っております。まずは支援センターの組織強化が

事業進展に向け決意新たに こまがね市民活動支援協会

市民活動支援センター「ぱとな」の2011年の仕事始め式が一月四日、駒ヶ根市中央の同センターで行われました。同センターやまちなかスクエアの職員五人を前に、鈴木明所長は「二カ年を経過した今では、『スタートして間もないから勘弁してください』は通用しなくなりません。一日一日を大



和やかに支援協会新年会

緊急課題と思います。市民活動においては先輩である協会員の皆さん、知恵と全面的な協力をお願いします」とあいさつしました。

参加者を代表し、竹内滋一さんが「行政の市民活動への協力を強く要請しましょう。事業推進には行政の積極的な関与が不可欠です。行政とは意思疎通を図って進めたい」と話しました。

切に、職員一人ひとりが新しい道を拓いて」と訓示しました。

鈴木所長は新年に当たり、新規の県下市民活動支援組織との連携、組織化、活動参加をはじめ、▽ホームページの充実▽エコポイント事業の浸透▽加入団体活動状況調査と援助内容の調査▽新たな区行政改革への切り口模索地域連帯感の醸成に向けた働きかけ▽イマジンニア宣言の推進▽看護大学との交流、など七項目の推進事業を示しました。

また、宮澤事務局長は「ぱとなに対する市民の目がシビアになっています。足元をしっかり固め、将来を見つめ、方向性を決めていく年にしなくては」と気を引き締めていました。

### 「ぱとな」よりのお知らせ「Pフレンド」

「Pフレンド」は2ヶ月に1度月初めに発行しています。登録団体からお寄せ頂いた情報、お知らせを中心に、助成金情報、ぱとなにいただいた情報などを掲載しています。ぱとなのほか、公民館、文化センター、金融機関・商業施設の一部に置いていただいています。詳細はぱとなへお問合せ下さい。



Pフレンド2月1日発行分



障がいのある人も無い人も一緒に楽しく

虹のポリシエの会



楽しかったバス旅行山梨県（ハイジの村）

「障がいのある人もない人も一緒に会食したり、バス旅行を楽しんでいます」と小林正太郎会長。  
二〇〇六年八月、フラワーハイツのデイサービスの仲間が集まり「ポリシエのように軽やかに、障がいがあっても高齢者でも旅行や食事に行ければいい」と、会を立ち上げました。会員は伊南地域の高齢者や障がい者、サポーターら約四十人。毎年、春はバス旅行、秋はふれあい広場に参加、年末にはクリスマス忘年会を実施してきました。

昨年は市社会福祉協議会のバス二台に、車いすの人を含め四十人が参加し、山梨県のハイジの村に行きました。「バラ回廊には早咲きのバラが咲き始め、園内をトロツコ列車に乗り童心に返って、楽しみました。昼食はバイキングで、お腹いっぱい食べて、みんな満足の様子でした」。

九月の駒ヶ根市ふれあい広場では手づくりのアクセサリーや野菜を販売し、ほぼ完売でした。「準備は大変でしたが、販売を通して、多くの人と触れあうことができ、有意義で楽しかった」。

一昨年は予定していたクリスマス会が、新型インフルエンザの影響で中止になってしまったため、昨年は十月末に行いました。雪が降ったり、路面が凍結してしまうと、障がい者や高齢者は足元が危ないので、早めの実施は大正解でした。「ボランティアやケアマネージャー、医師、看護師などの多くのみなさんの支えがあって、初めての事業が実施できます。それらの皆さんの負担を考えると、イベントを増やすことができないのが現状です」とも。

同会では「障がいがあっても、家に閉じこもらず、一緒に旅行や食事を楽しみましょう」と会員を募集しています。

代表・小林正太郎さん  
連絡先・小林隆男さん  
電話・八二一五八八四  
会員・四十人

「手しごと市場」で駒ヶ根の観光振興を

手しごと市場

「物作りや手仕事がまちの発展や、駒ヶ根の観光振興に寄与できればと願い、ファームス西側で手しごと市場を開いています」と田中稔会長。

市場の開催は四月一日から十一月三十日まで、県内をはじめ東京や京都まで各地から集まったクラフト作家が、陶芸、木工、ガラス、布、染色など多彩な手作り品を販売しています。

駒ヶ根高原では六月には全国からクラフト作家が集まる「杜の市」を、秋には「もみじクラフト」を開催していますが、駒ヶ根観光協会から「駒ヶ根を物作りのまちにしたい。春から秋まで出店し、駒ヶ根観光の一翼を担ってほしい」という申し入れがあり、〇三年、「杜の市」「もみじクラフト」参加のクラフトマンに呼び掛け、会を立ち上げました。年会費三千円（新規会員七千円）、一日一ブース二百八十円。会員は期間中自由に出店できます。

「伝えたい、見てもらいたい子どもたちに手しごとを」と、夏休み中に出店者によるワークショップを実施しています。昨年は八月七日〜十五日まで九日間に三百人余の子どもたちがナイフで木を削ってマスコットやフォークづくりなど様々楽しみました。「市内の

参加者が少ないのが残念です。今年の夏休みも体験教室を実施しますので、ぜひ参加を」と呼び掛けています。

会員の一人で、瀬戸市から参加、瀬戸物を販売する長江利直さんは「駒ヶ根は空気が澄み、景色もよく癒される」。指絵を上演販売する京都市の月乃星綾さんは「駒ヶ根高原はメルヘンの世界を描く私の作品にぴったり」。木彫作品で初めて出店した柴和彦さんは「先輩のみなさんが親切、教わりながら販売しています」と話していました。

同会では今年度の出店者を募集しています。

代表・田中稔さん  
事務所・市内赤穂  
八七七七一三九  
電話・八三一六三三二  
会員・八十八人



観光客でにぎわう手しごと市場（駒ヶ根高原）



## 区 8 の紹介

### 「町四区」

農業地・商業地・住宅地と  
様々な環境の中で仲良く



国際広場で祭典青年団伝統の「お花ちゃん」披露

辰見町北側から太田切川、宮田村境まで、南北約二キロ、東西は国道153号線から伊南バイパス、北の原は下平境までと南北に長い区です。区内には商店街や農村地域、新たな商業集積地、新興住宅団地、工業地域もあります。町部はドーナツ化現象で人口減が著しく、一方伊南バイパス沿いは急増しています。「区民は様々の環境の中

で、融合し仲良く生活しています」と金岩寛文区長。

昨秋は町一〇四区年番で大御食神社の例祭が挙行されました。区では祭典青年団を募集しましたところ、前回より三十人も多い百人が集まりました。お練りには二千人が参加し、例年にも増して、華麗な時代絵巻が練り広げられました。最近、区に入った人々も多数参加し、祭のテーマである『絆』が深まりました。一つの目的に向かつて、団結して頑張る姿に感動しました」と祭の効用を。

また、五月には杉本市市長や県議地元市議を招き、市政懇談会を開き、区の課題について熱心に意見交換しました。区行事の敬老会やマレットゴルフ大会、しめ縄づくりのほか、市民総合体育大会に参加し、大活躍し、国際広場では和太鼓や獅子を展示し、演芸「お花ちゃん」を披露し、異文化交流の一役を担いました。「各種行事には若い人の参加が多く、若い力を結集し、行事を盛り上げました。田中清志分館長をはじめ分館役員、区役員にも恵まれ、行事が成功しました」。

区の課題は六割弱となった自治組合の加入率です。「アパートやマンションが多いのが一因です。未加入問題は大家さんの協力を得ながら、コミュニケーションを図って生きたい」とも。

#### 区役員

区長・金岩寛文さん  
副区長・鎮西勝雄さん  
庶務・倉田一郎さん  
会計・中上昭夫さん

## 区 9 の紹介

### 「小町屋区」

伊南バイパス開通と

区画整理で大きく変貌

北は七面川から南は如来寺川まで国道153号線に沿って約一・五キロと南北に長く住宅地と農地が混在した地域です。近隣には市役所、赤穂小・中学校、赤穂高校があります。JR小町屋駅が東側に移転し、駅前広場も整備され、通学、通勤に便利な地域になりました。

伊南バイパスの開通により、沿線に大型店が相次いで出店し、農業地域が一大商業集積地に変貌しました。

南田市場土地区画整理事業の工事が終了し、行き止まりや消防自動車が行きできなかった小路が解消しました。新設の市場大通り沿線には三つの医院と介護施設が開業し、医療と介護面の支えになっていきます。小町公園やきらめき公園、のぞみ公園の三公園も整備され、素晴らしい環境の地域になりました。「区画整理は私有財産に関係し、地権者全員の賛同が無ければ実現できません。世紀の大事業が竣工したことは地域の誇りです」と伊藤区長。

八月の「区民ふれあい広場」にはマスつかみ、マスの塩焼き、金魚すくいのほか、青年海外協力隊コーナーも設けて、大変賑わいました。区内に流れている

ねずみ川、上穂沢川、七面川にはそれぞれ愛護会があり、河川整備活動を展開しています。区内三団体が県・市とアダプトシステム協定を締結し、道路・河川清掃美化活動に励んでいます。

区や分館、各種団体の活動も盛んで、地域の行事を通じて、人と人の繋がりが強くなっています。「小町屋区はまとまりのある区」だと自負しています。

組合加入率七割の同区ではアパートやマンションの未加入者から賛助区費を徴収しています。が、新しい人へどのように取り組み、絆を深めるかが課題です。各事業主から法人区費を徴収し、区の健全財政維持に寄与しています。一方では通勤車両が幅員の狭い生活道まで侵入し、交通安全上の課題です。

#### 区役員

区長・伊藤雅規さん  
副区長・中原暉夫さん  
会計・原勝弘さん



賑わった区民ふれあい広場（きらめき公園）



# まちなかスクエア便り

## 灯りフェスタ企画と ブログの立ち上げを実施



昨年末、まちなかスクエアでは、キャンドルや行灯が街を彩る『こまがね灯りフェスタ 2010』（昨年 12 月 23 日開催）の企画に携わらせていただきました。メイン会場の銀座通りでは、参加者の皆さんにキャンドルを配布し、皆で大きなハートを完成させる「心の灯りイベント」を開催。広小路・日の出町・仲町と本町の交差点が舞台となった行灯通りでは、手づくりの置き行灯 200 基が街を彩り、駅前には市内在住のキャンドル作家さんによる作品が展示されました。また、メインイベント終了後には日の出町でキャンドル喫茶を開店。会場は、ミツロウキャンドルや写真家・加勢春樹さんの作品を楽しむ人で溢れました。

メインイベントの前には銀座通りでイベントを開催。駒ヶ根太鼓、縁舞蓮、はつらつハーモニカの皆さんが日ごろの成果を発表してくださいました。また、赤穂高校生徒会の皆さんによるチョコレートを使ったイラク支援の活動発表、南信州演劇文化創造劇場の皆さんによる「第 16 回 駒ヶ根市民とプロの共同公演 早太郎伝説」のチラシ配りなども行われました。

『こまがね灯りフェスタ 2010』全体では、およそ 100 名の市民参加を頂くことができ、大変嬉しく思っております。市民ボランティアや商店街の方が作業を手伝ってくださった、今回掲載した市民団体の活動発表写真は前出の加勢さんが撮影してくださいました。今後も多くの皆さんと協力し、駒ヶ根を盛り上げるお手伝いができたらと思います。ご協力いただきました皆さん、参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。まだまだ寒い日が続いています。街歩きやバス・電車待ちの際には、どうぞお気軽に『まちなかスクエア』にお立ち寄りください。



イベントで活動発表を行う市民団体の皆さん

## まちなかスクエアとは？

昨年 7 月、駒ヶ根市の街なか創業支援事業として『街なか創業実践塾』が開講。駒ヶ根市、駒ヶ根商工会議所、市内商店街、観光協会などのバックアップと協力を基に、こまがね市民活動支援協会が事業を受託。広小路に創業実践塾「まちなかスクエア」をオープンし、2 名の職員が店舗営業と駒ヶ根の活性化に挑戦しております。店内には、名産品や工芸品、市民や身障者の皆さんの手作りの品などを展示。一部商品は販売も行っております。休憩所としても利用していただき、中央アルプスの水を使用したコーヒーや緑茶をお楽しみいただけます。

### Information

昨年 11 月に駒ヶ根の情報発信ブログサイト『こまがねブログ』を開設いたしました。中心市街地のお店情報や駒ヶ根高原の定点観測など、駒ヶ根に関する記事を随時更新させていただきます。ぜひアクセスしてください。

<http://komagane.naganoblog.jp/>

住所：駒ヶ根市中央 17-13  
営業時間：10:00～18:00  
電話番号：0265-82-1171  
定休日：日曜日 / 月曜日

### 編集後記

少子高齢化が、大きな社会問題となつていきます。日本だけでなく、中国でも「一人っ子政策」の影響で将来の少子化を心配している人もいます。子どもを育てることはとても難しいことだと私も経験から思います。「子どもが何を考えているのか、どうしたいのか」、時には戸惑うことさえあります。私が育った頃の親はどうだったのか、今では尋ねてみることも出来ませんが、子どもから見ると実に堂々としていたように見えました。「嘘をついてはいけません」といつも言われていても親にはすぐに解るような子どもの言い訳を必死にしていたものでした。「天知る、地知る、君知る、我知る」。良く母は口にしていました。人間は一人で生きていくようでも多くの人達が関わり、社会を構成してきます。「他人に余り干渉されたくない」との想いは「自分が納得すれば」と考えがちですが、時には「他人はどう考えるだろう」と違う目線で事に当たることも人生を歩む上では必要かも知れません。

年度末が近くなり、纏めや報告書などの多い時節です。支援センターでは、印刷機やコピーのご利用だけでなく市民の皆さんの交流や街なかのご相談の場としてもご利用できます。春の訪れを待ちわびる二月。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

【事務局長 宮澤】

発行日 二〇一一年(平成二十三年)二月  
発行者  
こまがね市民活動支援センター